

おなご むのうりよくしや
結婚した女子が無能力者になるとは、
どういうことか？

樋口一葉最後の小説

原作：樋口一葉
脚本：英次ともゑ

われから

演出：鈴木龍男
演奏：栗木健
内藤眞代

撮影：高橋まゆみ

樋口一葉 没後130年記念 奥山真佐子ひとり芝居

三越劇場 (日本橋三越本店本館6階)

10月31日(土)

午後3時開演 (開場は30分前)



料金：6,000円 (全席指定・税込)

企画制作：いちまるよん <http://www.okuyama104.com/>

ご予約・お問合せ

前売開始 8月3日(月) 正午～

三越劇場 0120-03-9354 (正午～午後6時)

<http://mitsukoshi.mistore.jp/bunka/theater/>

*前売初日はお電話・インターネット予約のみ

イープラス <http://eplus.jp/> (パソコン・スマホ)



MITSUKOSHI
三越劇場

〒103-8001 東京都中央区日本橋室町1-4-1
日本橋三越本店本館6階

われから

79年前までの「大日本帝国憲法」下では、
女子は行動の自由、経済的自由がない
無能力者の扱いを受けていたのです。



おくやま まさこ
奥山真佐子

(山梨県甲府市出身。文教大学文芸科卒)

<http://www.okuyama104.com/>



黙読では得がたい樋口一葉小説を生演奏との共演
で表現する「ひとり芝居」29年

山梨ことば指導:NHK【夢みる葡萄】【花子とアン】
【とと姉ちゃん】他

NHK 視点論点で語る:【一葉さんと私】【こびつと
しちやあ〜ドラマ言葉(奥山命名)の課題〜】

日本女性参政権獲得の脚本形式歴史書(権利の
上に眠るな〜普選、婦選、そして18歳〜)執筆
日本新劇俳優協会会員、市川房枝記念会女性と
政治センター維持員、山梨県人会連合会文化ス
ポーツ委員、やまなし三女祭の会特別講師

*受賞:御国座社長演技賞/横浜 SAAC 細うで繁盛記賞/第33回前田晁文化賞他

◎物語

相思相愛の両親のもとに誕生した主人公・お町だが、
生まれて3か月目に母親は出奔。それが貧しさ故と知った
父親は、金の亡者となって莫大な財産を残す。

お町は、父親が資金をつぎ込んで政治家にさせた恭助
(入り婿)の妻となり、豪邸で自由気ままな豊かな生活。
だが、自分の存在が肯定できず不安や怯えにさいなまれ
ていた。そんな時、夫・恭助が妾を囲っていることを知る。
そして……

◎原作者

ひぐち いちよう
樋口一葉

(東京生まれ。両親は現在の山梨県甲州市塩山出身)

「女子にながく学問をさせなんは、ゆくゆくのためよろしからず」と当時の考え方に従い進学できず小学校高等科卒。その後、萩の舎で古典の教養を身に付け19歳で処女作「闇櫻」脱稿。近代の女性作家第一号の名声を得て、1896(明治29)年11月23日24歳で生涯を閉じる。1950年郵便切手の肖像に、2004年五千円紙幣の肖像となる。

◎筆奏者

ないとう みちよ
内藤真代

(福井県出身)

箏〜koto ganpy〜内藤 真代

幼少の頃より、アララギ楽苑渡辺悠子氏に
手ほどきを受ける。

第5回全国高校邦楽コンクール第1位受賞。

福井県文化協議会新人賞受賞。

NHK邦楽技能者育成会第46期卒業後、
箏曲以外のジャンルにも参加。

現在、大久保スタジオM・小二田茂幸氏
作品を中心に活動中。



◎打楽器奏者

くりき けん
栗木 健

(名古屋出身)

<http://kurikiken.com>

横浜在住の打楽器奏者。仙波清彦に師事。

芝居やドラマ等の楽曲製作も多い。

世の中に存在する音からまだ無い音、音楽から
効果音まで、音に関わる事なら何にでも興味の
ある求道者。多くの仏具楽器を所有しており、
その量は自称世界一。

「TheScreenTones」「仮想定規」「阿佐ヶ谷
姉妹ニュードアーズ」のメンバー。



スタッフ

脚本: 英次ともゑ。演出: 鈴木龍男。美術: 佐々波雅子。照明: 須藤実。作曲: 小二田茂幸。衣裳: 高橋喜与子。床山: 武川卓男。美粧: 佳山みな
所作指導: 藤間秀暉。照明オペレータ: 石井友美・小柳津洋子・出牛美香。アナウンス: 小町さなえ。舞台監督: 稲元洋平。デザイン: 門馬幸恵
スチール撮影: 高橋まゆみ(ヘア・メイク: 小林エミ子・谷沢和香)。制作: 川上よう子・松丸浩子・明間佐代子・野秋美和・尾花泰子・宮崎真澄

協力

浅草米久本店。浅草中屋。浅草よ兵衛。新橋一葉。銀座ギャラリー枝香庵。大久保スタジオM。蓬治療所。日本キリスト教婦人矯風会。お多八。あいうえお
森鷗外記念館。文京区立本郷図書館。棚澤書店。喫茶ルオー。画廊タンギー。名曲喫茶 麦。千草。てっぺいちゃん。唐変木。安兵衛。小春食堂。菊名生花店
文教大学学園。甲府市教育委員会。山梨県立文学館。山梨県人会連合会。日本盲導犬協会。市川房枝記念会女性と政治センター。やまなし三女祭の会。如月
鎌倉市鍋木清方記念美術館。奈可川。京都&鎌倉伊と彦。ぎやらりー伊砂。天昇。あさくさ食堂。平野。CAZAMA。HATAGO。春光堂書店。常泉寺。法真寺
葉山寮。六花。La Nostalgia。馬車道十番館。龍馬。映画館まちの灯り。かまくら駅前蔵書室。鎌倉FM



樋口一葉が生きた時代について学んでいる連続講座 二 甲府・県立図書館

山梨ゆかりの文学者で、女性職業作家の先駆けとしても知られる樋口一葉（1872～96年）の没後130年となる今年、一葉の人生や作品、一葉が生きた時代について学ぶ連続講座が甲府市内で開かれている。

一葉作品を一人芝居にして演じている甲府市出身の俳優奥山真佐子さんが講師を務め、「樋口一葉を伝える 奥山塾」と題し全3回で開催。第1回では、奥山さんが一葉作品の一人芝居を始めるきっかけとなった東京・法皇寺の住職とのエピソードや、一葉の「だけくらく」が教科書に掲載されなくなり、当時の文部省に理由を問いわれたところ「時代に合わない。言葉が難解」という回答を得たところを紹介した。

奥山さんは一葉作品につい

樋口一葉の人生、作品紹介

俳優・奥山さん^(甲府出身)連続講座

て「言葉は難しくても、描かれた内容は今も心に染みるものばかりで、決して過去のものではない」と説明。「伝えなければ忘れ去られてしまう。国が伝えないなら私一人でも伝え続けよう」と覚悟を決めた」と語った。

一人芝居では、一葉小説の「美しい原文」をできるだけ生かしながら、「文章の奥にある一葉の魂、登場人物の置かれた状況や叫びを伝えるにはどうしたらいいか」悩みながら脚本を書いたと話した。

奥山さんによる一葉日記の朗読、奥山さんが創作した一葉の両親が江戸に出て身を立てていく過程を描いた会話劇を受講生が上演する時間もあり、幕末から明治にかけての時代の空気を言葉を通して学んだ。

連続講座は、女性の地位向上などを旨とする「やまなし三女祭の会」が主催。同会は一葉と金子文子、望月百華の山梨ゆかりの3人の女性の生き方などを学び、現代の女性を取り巻く課題について考えようと活動している。

第2、3回講座は8月6日午後2時半からと、9月17日午後2時から、いずれも甲府・県立図書館で開かれる。1回だけの受講も可能。問い合わせは同会の若尾さん、電話080（6504）0250。

〈五味優子〉